

観光地における地域活性化と連携した公共交通の利用促進方策に関する検討*

Examination of promoting the use of public transpotations in cooperation with revitalization of major sightseeing areas *

後藤 正明**・土井 勉***・辻堂 史子****・山口 記弘*****・鈴木 理夫*****

By Masaaki GOTO **・Tsutomu DOI***・Fumiko TSUJIDO****・Norihiko YAMAGUCHI*****・Michio SUZUKI*****

1. はじめに

京都市の太秦地区は、年間約100万人の観光客が訪れる東映太秦映画村（以下、映画村）や広隆寺を有する観光拠点であるが、春秋の観光シーズンにはマイカーや観光バスによる交通混雑が問題となっている。一方で、地場産業である映像産業の衰退などにより、まちの活力も低下しており、地域再生が太秦地区の課題となっている。

本稿では、観光客を受入れる地元地域側での取り組みとして行った「まちの活性化」をめざした取り組みの概要を示すとともに、まちの活性化と連動する公共交通の利用促進方策として行った映画村での観光ピーク時の臨時ルート設置、電車利用促進ポスター・電車乗換え案内チラシ・回遊マップの作成配布、まち歩きの実験など来訪者が「電車と徒歩」での来訪を選択するための各種の仕掛けづくりの実践事例を紹介する。

2. 太秦地域の現状と課題

(1) 京都・太秦地区の概況

太秦地区は、京都市の西側に位置しており、古くから養蚕の地、近年は映画の町として有名であり、映画村や広隆寺を有する観光拠点となっている。

(2) 太秦地区の現状の問題点

a) 映像産業を取り巻く厳しい経営環境

太秦地区は、かつて日本のハリウッドと称され、1930年代（最盛期）には8つの撮影所を有し、映画を支える多くの専門家、技術者、職人により、一つの産業群を

*キーワード：公共交通政策、地域活性化、市民参加

**正員、株式会社シティプランニング

（京都府京都市下京区綾小路通新町東入善長寺町143

マズギビル2F, TEL075-344-5561, FAX075-344-5562,

E-mail goto-cp@par.odn.ne.jp)

*** フェロー、工博、神戸国際大学経済学部

**** 株式会社シティプランニング

*****株式会社東映京都スタジオ（東映太秦映画村）

*****京福電気鉄道株式会社

形成していた。

しかしながら、映像産業の東京への一極集中などに伴い、現在は撮影所数2か所（東映・松竹撮影所）のみとなっており、デジタル技術への対応の遅れや、製作本数の減少などの課題を抱えながらの経営となっている。こうした状況から、地元商店街（大映通り商店街）も往時の賑わいが失われた状況となっている。



図-1 太秦地区の位置



図-2 太秦地区の概要

b) 集客核としての映画村の魅力の低減

映画村は、年間約100万人の観光客が訪れる京都の重要な観光拠点の一つであり、日本のテーマパークの草分け的存在であるが、その集客に翳りが見えはじめています。

この理由としては、娯楽ニーズの変化に伴う時代劇そのものの魅力の低下、映画村の時代劇オープンセットのもつ魅力のPR・情報発信不足、周辺の観光拠点との連携不足などがあげられる。

c) 観光シーズンの太秦～嵐山地区の交通混雑

太秦地区では、春秋の観光シーズンには映画村に来るマイカー等により、映画村周辺での交通混雑が発生している。さらに、集客力の大きい嵐山地区が近接し、太秦地区がその通過地点となっているため、より一層の交通混雑となっている。

(3) 活性化に向けての課題

太秦地区の映像産業の低迷、観光地としての映画村の集客力の低下、商店街の人通りの減少などにより、まちの活力も低下している。こうした状況から、これまでも様々な取り組みを行ってきたが、太秦地区の活性化に向けては、次のような課題がある。

- ①撮影所、映画村、商店街などでそれぞれ様々な取り組みを行ってきたが、関係者相互の連携が図られておらず、一過性の取組みになりがちである。このため、映像産業と観光産業、地区内の交通問題などを総合的に検討する場の設置が必要である。
- ②太秦地区周辺での動きとして、都市計画道路の整備、連続立体交差事業に伴う鉄道の輸送力強化、高架橋周辺の土地活用、公共施設跡地の活用などがあるが、これらのインパクトをまちづくりに有効に活用していくためには、地区の問題点を整理したうえで、地区全体を見据えた戦略的な取組みが必要である。
- ③太秦地区には、映像産業、映像文化、歴史文化、商店街の店舗など様々な地域資源があるが、埋もれているもの、活かしていないものなどがある。活性化にあたっては、これら地域資源の掘り起こしと有効活用を行うことが必要である。

3. 太秦地区の活性化の取組み

(1) 活性化への取組み方針

前述の地区活性化に向けての課題を踏まえ、今回の取組みでは、地区全体として太秦地区に関わる様々な立場の人が地元主導で集まり、地域資源に改めて目を向け、地区再生につなげていく方法を検討し、出来ることから実践することとした。

a) 協議会の設立

地域全体としての活性化、まちの再生に向けて、地場産業である撮影所、観光拠点の映画村、交通事業者、地元の映像系NPO、地元商店街、行政（観光・商工部門）、商業系及び土木系コンサルタント等の構成員により「京都・太秦時代劇再生協議会」を設置した。

b) 活性化方針の設定

地域の活性化を図っていく上では、太秦地区が日本の映画製作の拠点であったこと、その映画製作の技術が受け継がれていることを第1と捉えることが重要との認識から「地域資源である映画を軸に『映画のまち太秦』を再生する」をテーマに取組み方針の検討を行った。

太秦再生の取組み方針としては、地域再生を牽引する“エンジン”としての映像産業の育成・振興を産・官・学の協働で進める。「映画のまち太秦」という地域ブランドを映画村や社寺、商店街を中心に新たな「ブランド商品」の創出により進める。太秦へのアクセス性向上、地域での生活利便性を高めるため、公共交通の利用促進を軸とした交通環境の改善を進める。以上の3つを施策の柱として相互に連携させながら、まちの賑わい再生を図っていくこととした。

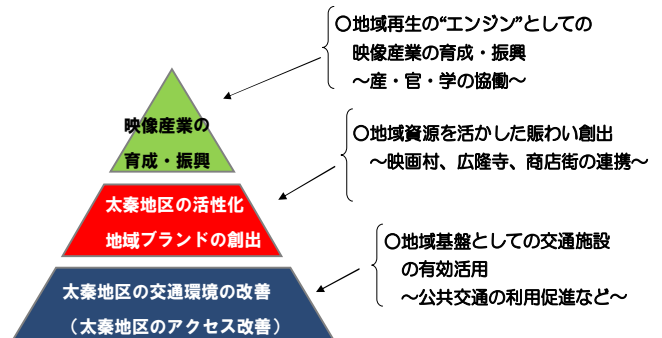


図-3 太秦地区再生への取組み方針

(2) 地方の元気再生事業の活用による取組み

平成21年度の取組みでは、「内閣府 平成21年度地方の元気再生事業」の採択を受け、「地域資源『時代劇』で再生する『映画のまち太秦』～次世代に伝える地域の技術～」事業として次の3つの取組みを実施した。

a) エコ教育の映像制作と情報発信

太秦地区の地域資源である映像産業の集積や撮影所等の撮影拠点を活かし、新たな産業育成・振興の担い手となりうる次世代の人材育成を目的として、脚本作りから撮影、上映までの実際の映画制作を体験する機会づくりを行う。

また、制作する作品のテーマを「江戸時代のエコ生活」とすることにより、同地区がもつ歴史文化性の高さを再認識させるとともに、環境意識の向上の契機とするなど、課題解決に向けた相乗効果を狙う。

b) “太秦ブランド”の普及・認知力の向上に向けた「時代劇トライアル検定」実施

地域のブランド力の向上を目的として、太秦地区の象徴である「時代劇」にスポットを当てた「時代劇検定」の実施に取り組む。今回は検定実施に向けた試行として、「トライアル検定」を中心としたプレイベントを

実施し、試行を通じた地域関係者の気運醸成及び本番までの効果測定を行う。

c) 公共交通の利用促進に向けた広報方策の検討及び社会実験の実施

周辺交通の緩和による環境改善と低炭素社会の寄与を目的として、太秦地区への来訪者が積極的に公共交通及び徒歩での来訪を選択するような仕掛け作りを目指す。

また、この仕掛けにより、これまでの来訪手段が自動車から徒歩に変わること、太秦地区での滞在時間が増加し、周辺商業施設等への集客増加が期待されるとともに、集客増加がもたらす波及効果により、新たな地域資源を創出する契機となることも相乗効果として期待される。

表一 平成21年度の取組み概要

取組み	概要
エコ教育の映像制作と情報発信	・自主映画「そのたび」（上映時間 37 分）の制作と上映会開催。
“太秦ブランド”の普及・認知力の向上に向けた「時代劇トライアル検定」実施	・「トライアル検定（4 択 50 問、制限時間 30 分）」をインターネット（携帯よりアクセス可能）により実施。
公共交通の利用促進に向けた広報方策の検討及び社会実験の実施	・観光ピーク時の臨時ルート設置の社会実験実施、電車利用促進ポスター・チラシの作成、回遊マップ作成。

以上の取組みのうち、次章では、公共交通の利用促進に向けた広報方策等に関する取組みについて述べる。

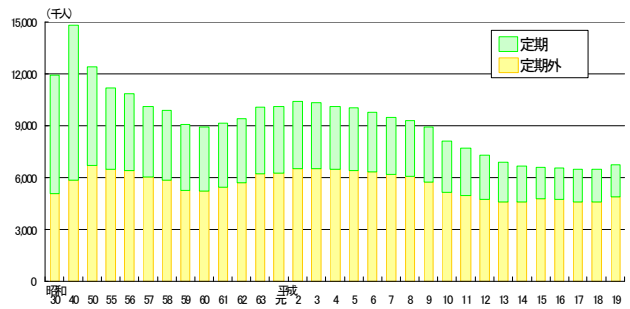
4. 公共交通の利用促進のための方策

(1) 転換方策の概要

太秦地区を通る鉄道としては、嵐電嵐山本線とJR嵯峨野線がある。このうち、嵐電嵐山本線については、地下鉄東西線と連絡する嵐電天神川駅の設置、割引キップの販売など鉄道の利便性向上も図られているが、利用者は横ばい状況となっている（図一4）。また、JR嵯峨野線については、連続立体交差事業により、この3月に輸送力の増加が図られたところである。

こうした状況を踏まえ、太秦地区においては、現在ある鉄道の有効活用を図ること、マイカーに頼った観光施設の集客パターンを変えていく必要があるとの認識のもと、太秦地区への来訪者が公共交通と徒歩での来訪を選択するような仕掛けづくりとして、観光施設が主体となった観光ピーク時の「臨時ルート」の設置（（2）

a) 参照）、電車利用の啓発ポスター、電車乗換え案内チラシの作成・配布、電車利用とまち歩きを楽しみをPRする回遊マップの作成を行った。



(京福電気鉄道株式会社資料)

図一4 嵐電の利用者数の推移

表二 公共交通の利用促進のための方策

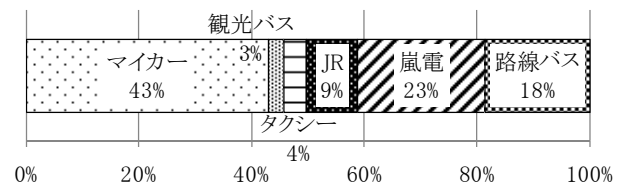
方策	概要
a) 臨時ルート設置の社会実験	・映画村への鉄道アクセス利便性の向上及び、太秦地区回遊への寄与を目的とした臨時ルート設置。
b) ポスター、チラシの作成	・太秦地区への来訪者が公共交通及び徒歩での来訪を選択するよう、公共交通の便利さと利用促進をPRするポスター、チラシの作成。
c) 回遊マップの作成	・電車と徒歩による太秦地区回遊の手助けとなる回遊マップの作成。

(2) 観光ピーク時の臨時ルート設置の社会実験

a) 社会実験の目的

映画村の最寄駅は嵐電太秦広隆寺駅（徒歩約5分）であるが、嵐電嵐山本線は、春秋の観光ピーク時には2両編成（普段は1両運行）で運行しても満員となっており、嵐電アクセスによる更なる集客力向上は期待できない状況にある。

こうしたことから、観光ピーク時の電車利用の促進には、輸送力の大きい JR 嵯峨野線を有効に活用することが考えられるが、JR 太秦駅から映画村へは徒歩約15分を要するため、現状において JR 嵯峨野線を利用する観光客は少ない（図一5）。



(平成21年ゴールデンウィークの事例)

図一5 映画村のアクセス交通手段割合

このため、本取組みでは、通常は一般利用ができない東映京都撮影所のゲートと敷地を利用してJR太秦駅から映画村にショートカットで行くことが可能となる臨時のアクセスルートを作り、通常15分を要するアクセス時間を5分程度に短縮する社会実験を行った（図一6）。

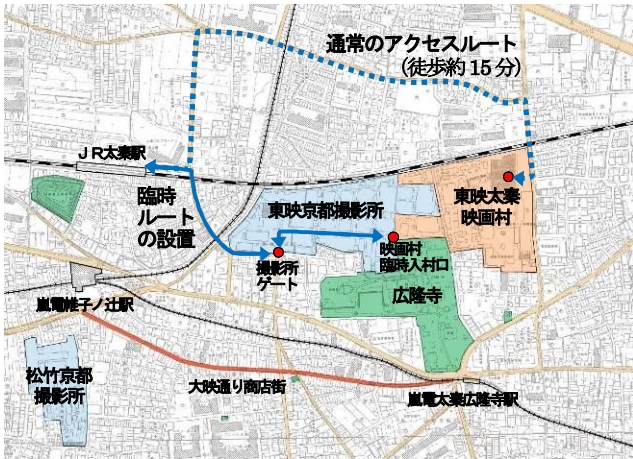


図-6 臨時ルートの位置

b) 社会実験の概要

社会実験は、太秦地区への観光客が多く、東映京都撮影所の協力が得られるシルバーウィーク（秋の5連休）のうち、平成21年9月20～22日の3日間実施した。

社会実験の案内については、映画村ホームページへの事前掲載、当日のJR太秦駅、JR京都駅での案内誘導、撮影所ゲート付近での係員誘導、案内看板の設置等により行った。なお、映画村ホームページでは、日程や時間に加え、通常掲載していない「公共交通でお越し下さい」という情報もあわせて案内した。

c) 実験結果

映画村への観光客の公共交通利用率は、シルバーウィークの5連休のうち、臨時ルートありの場合（9月20日～22日の平均）が48%，臨時ルートなしの場合（9月19日，23日の平均）が36%となった。

観光客を対象に実施したアンケート調査は、次のとおりである。

【観光客の情報源について】

観光客の約75%が映画村臨時入村口の設置（社会実験の実施）を知らなかった。社会実験の実施を知っている人の情報源としては、映画村のホームページが最も多かった。

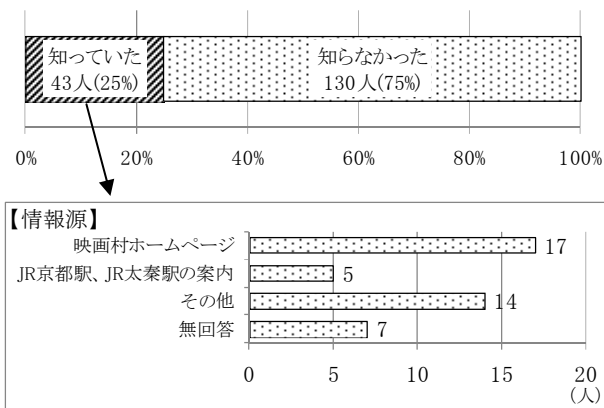


図-7 社会実験の認知状況及び情報源

【取組みの感想】

観光客の約50%が「JR太秦駅から近くて良い」、約30%が「撮影所の中に入れて楽しい」、約10%が「常設されているなら利用したい」と、臨時ルートの設置に対し好意的な評価をしている。

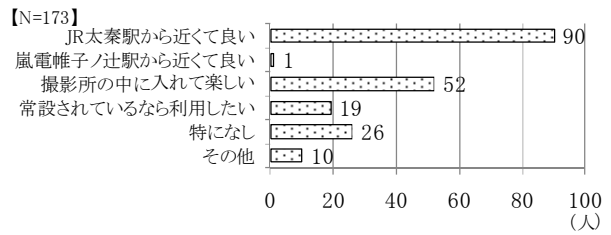


図-8 臨時ルートの評価

(3) 電車利用促進ポスター・チラシの作成

太秦地区は、アクセスする鉄道の利便性が高いが、そのことを観光客が十分認知していないことが電車を利用しない要因の一つと考えられる。こうしたことから、電車で太秦地区に訪訪してもらうことをPRする目的で、「歩いてめぐる！映画のまち太秦」をテーマに、電車利用促進ポスターと乗換え案内チラシを作成し、主要な鉄道駅、映画村、大映通り商店街、各新聞社などに掲示・配布した。ポスターの作成にあたっては、次のような工夫を行った。

- ・京都市内の鉄道ネットワークと、どこが太秦に至るための乗換駅であるかを利用者の立場で示す。
- ・大阪や京都都心部から電車利用で太秦にアクセスする場合の利用路線と所要時間を明確にする。
- ・嵐電が10分間隔で運行されていることを明示する（観光客が路面電車である嵐電の運行頻度を知らないことが多いため）。
- ・環境にやさしい乗り物であることをPRする。
- ・太秦への観光客を増やすため、太秦地区の簡単な観光案内（広隆寺、映画村、大映通り商店街）を掲示する。また、チラシの作成では、上記のほか、
- ・異なる鉄道会社の時刻表（JR太秦駅、嵐電太秦広隆寺駅、地下鉄太秦天神川駅）を一緒に掲載して、利用者の利便性を高める。
- ・JR西日本、阪急電鉄、京都市地下鉄、嵐電の概ねの運行間隔を明示する。より詳しい情報提供のため、QRコード、ホームページアドレスを掲載する。
- ・太秦へのアクセス方法だけでなく、便利でお得なキップ情報など鉄道利用を促進するための情報を掲載する。といった工夫を行った。

表-3 ポスター・チラシの概要

	ポスター	チラシ
仕様	B2版	A4版（2つ折り）
部数	150部	20,000部



図-9 電車利用促進ポスター

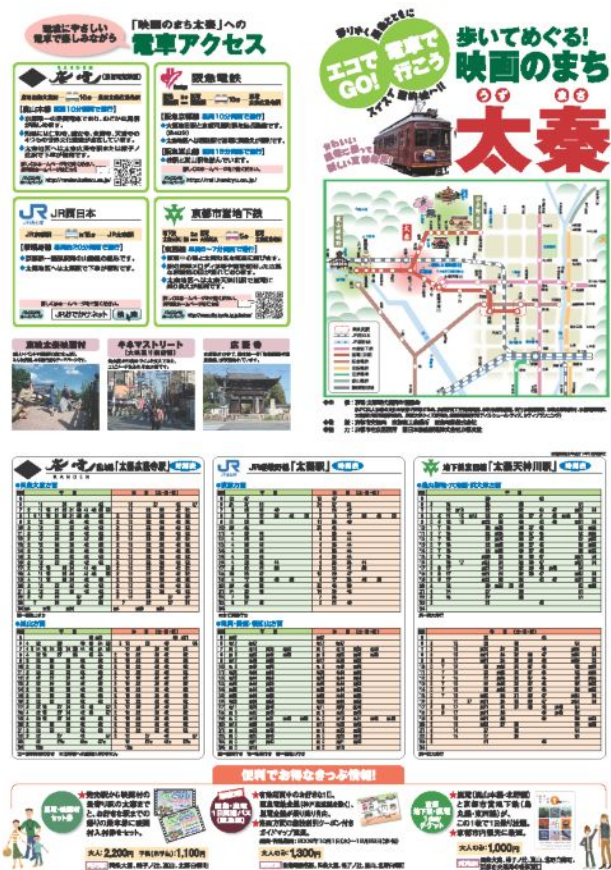


図-10 電車乗換え案内チラシ

(4) 回遊マップの作成

来訪者が公共交通と徒歩での来訪を選択するような仕掛けのツールとして、かつ、活力が低下してきている商店街の活性化のためのツールとして、ポスター・チラシ

シで掲載した電車利用促進のための情報と、太秦地区を楽しんでもらうための地域の魅力を掲載した回遊マップの作成を行った。

魅力ある地域情報の掲載にあたっては、埋もれている地域資源や活用されていない地域資源の掘り起こしを行い、地域の魅力づくり・活性化に貢献できる形で掲載することが重要となる。このため、地域資源の掘り起こしを目的としたワークショップを、地元住民や地域で働く人達の参加により実施した。さらにその結果を現地調査により確認した上で、太秦回遊モデルコースとして整理し、多様な観光ニーズに対応できるよう主目的、所要時間が異なる3つのコース（映画コース、歴史コース、キネマストリート通り抜けコース）を設定した。

以上の手順で作成した回遊マップを主要な鉄道駅、映画村、大映通り商店街、各新聞社などに掲示・配布した（表-4、図-11参照）。

表-4 回遊マップの概要

掲載内容	・鉄道ネットワーク図（乗換えマップ、乗換え所要時間）、太秦周辺マップ、回遊モデルコース、太秦地区の見所案内（広隆寺、映画村）、ミニ知識、地元のお薦め店、など
仕様	A3版両面、8つ折り加工、
部数	35,000部



図-11 回遊マップ

5. 活性化・賑わいづくりのための総合的な取組み

(1) 回遊性向上のための社会実験の実施

太秦地区を元気にしていくひとつの方策として、かつ、「電車&歩く」の実践による公共交通利用促進策として、「回遊したくなるまち太秦」をめざして、どうすれば、もっと回遊してもらえる太秦になるのかをテーマとしたワークショップを開催した。このワークショップでは、今回作成した回遊マップ等を活用しながら、実際に太秦のまちを歩いてもらい、良い点、悪い点、改善すべき点など気付いた事柄を議論してもらい、太秦回遊のための施策を検討した。

この結果、鉄道駅を映画のまちの玄関口として活用、太秦の魅力を伝えるきめ細かな情報提供、映画関連のエピソードを含めたまち歩きのストーリーづくり、歩きやすくするための安全対策の実施などの施策提案がなされた。



写真-1 ワークショップの開催状況

(2) 賑わいづくりのためのイベントの実施

今回の「平成21年度地方の元気再生事業」として実施した3つの取組み分野を総合化したイベントを太秦地区の活性化の一事例として実施した。このイベントは、商店街の歳末大売出しに絡めて、地元NPOが所有する映像ライブラリーの上映会、時代劇検定のプレイイベント、東映京都撮影所の見学会、交通事業者である嵐電が企画した嵐電饅頭の特別販売を組み合わせたものであった。

このイベントは、太秦地区が持つ地域資源を積極的に活用して、あまり関係者の連携が図られていなかった取組みを総合化することで集客力・PR力を向上させる、といった狙いで実施したものであり、関係者間の連携強化や太秦ブランドのPR力の向上といった成果が表れた。

6. 取組み結果のまとめと今後の課題

(1) 協議会の設置について

今回の取組みの推進母体となった「京都・太秦時代劇再生協議会」は、行政主導ではなく様々な課題を抱える地域側の発意から設置された組織であり、今回の取組みを通じて協議会として一定の成果を得た。今後とも、地域再生の新たな協議の場（プラットフォーム）として、継続的な活動を行っていくことが要請される。

(2) 公共交通の利用促進について

今回は、公共交通の利用促進方策として、ポスター、チラシ、回遊マップの作成を行った。この結果、チラシでは、違う鉄道会社の時刻表が1枚で見られるため、地元の商店などから使いやすいと好評を得るなど一定の効果が確認できた。回遊マップについては、当初は配布を予定していなかったところからの配布依頼があり、また地元商店街にも各店舗に予想以上に配布できたことなど太秦地区の観光PRに効果があったと考えられる。

今後とも継続的な公共交通利用促進のためのPRを利用者や情報の受け手のニーズを踏まえながら、様々な工夫のもとで実施していく必要がある。

(3) 地域再生への取組みについて

地域再生に向けて商店街の歳末大売出しに絡めたイベントの実施をはじめ、製作した映画の上映会、時代劇検定トライアルを実施した。これらの取組みは、地域の元気再生という1つの目標のもとで実施したものであり、こうした活動を年間のスケジュールに載せながら、継続していくことが、太秦地区の再生につながっていくものと考えている。

最後に、今回の取組みの推進にあたってご協力いただいたNPO京都の文化を映像で記録する会の濱口十四郎氏をはじめとする「京都・太秦時代劇再生協議会」のメンバーの方々に感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 山本信弘, 土井勉, 後藤正明, 宮崎秀夫, 土屋樹一, 塩土圭介: 「『嵐電』をケーススタディとした持続可能な中小鉄道の活性化計画」第39回土木計画学研究発表会論文集
- 2) 京都・太秦時代劇再生協議会, 経済産業省近畿経済産業局 (2010.3) 「地域資源『時代劇』で再生する『映画のまち太秦』～次世代に伝える地域の技術～事業報告書」